

● 今月の新着図書 ●

議会図書室からのお知らせ
R5年5月号



『安倍晋三 回顧録』
安倍 晋三【著】/中央公論新社 (2023/2)

2022年7月8日、選挙演説中に凶弾に倒れた安倍晋三元首相の肉声。なぜ、憲政史上最長の政権は実現したのか。あまりに機微に触れるとして、一度は安倍元首相自身が刊行を見送った、36時間にわたる未公開インタビューの全記録。



『さらば、男性政治』
三浦 まり【著】/岩波書店 (2023/01)

女性の衆議院議員の割合は、9.7%ならず。女性を排除する日本の政治風土と選挙文化一。日本の政治をアップデートするには？日本政治の構造に切り込み、なぜジェンダー平等な議会が実現しにくいのか、どのように変革の道筋をつけるのかを論じる。



『だから私はここにいる
～世界を変えた女性たちのスピーチ』
アンナ・ラッセル【著】/フィルムアート社 (2022/5)

エリザベス1世、マリー・キュリー、ミシェル・オバマ…。性差だけでなく人種、民族、宗教、障害の壁も乗り越え、多様な分野で権利と尊厳のために声を上げてきた女性たち54人の力強い言葉をまとめたアンソロジー。



『コミュニティ・オーガナイズング
～ほしい未来をみんなで創る5つのステップ』
鎌田 華乃子【著】/英治出版 (2020/11)

おかしな制度や慣習、困ったことや心配ごとなど、社会の課題に気づいた時、私たちにできることは？ 普通の人々のパワーを集めて、政治・地域・組織を変える方法をストーリーでわかりやすく解説。



『AI防災革命～災害列島・日本から生まれたAIベンチャーの軌跡』
村上 建治郎【著】/幻冬舎メディアコンサルティング (2021/12)

「防災」の新たな局面を切り拓くベンチャー企業の軌跡と展望とは？災害大国日本において、災害状況を即時に可視化して予測するAIベンチャーが描く、未来の防災。



『異彩を、放て。～「ヘラルボニー」が福祉×アートで世界を変える』
松田 文登・松田 崇弥【著】/新潮社 (2022/10)

「ヘラルボニー」は、知的障害がある人の作品に対し正当な芸術価値を対価で還元する、福祉実験ユニット。双子の起業家が語るスタートアップの軌跡。



『自治体クラウドファンディング
～地域創生のための活用策』
佐野 修久【著】/学陽書房 (2022/8)

地方自治体におけるクラウドファンディングの活用を、①歳入確保型、②PPP活用型、③政策実現型の3つに区分し、それぞれの役割、仕組、活用、課題について、県や市での具体的な活用事例とともに解説。



『NIPPONIA 地域再生ビジネス
～古民家再生から始まる持続可能な暮らしと営み』
藤原 岳史【著】/プレジデント社 (2022/10)

“なつかしくて、あたらしい”分散型エリア開発事業とは？全国に増え続ける古民家・空家を活用した宿泊施設「NIPPONIA」。先導する(株)NOTE代表の著者が、そのノウハウと実例を交えて、なぜ「NIPPONIA」が日本の地域再生に資するのかを克明に記す。



『栄光と葛藤の日々
～サンデン百年年代記。地場産業からグローバル・エクセレント・カンパニーへの道のり』
磯 尚義【構成・執筆】/上毛新聞社 (2022/10)

敗戦後、かろうじて焼け残った工場から再び立ち上がったサンデン社員たち。破竹の勢いで戦後を駆け抜けた。挫折と、そして希望。ここに企業の栄光と葛藤の日々のすべてがある。

「小説・ノンフィクション」特集 (蔵書から)



『ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー①②』(2019/6、2021/9)
ブレイディみかこ【著】/新潮社

英国在住の著者が、「人種も貧富の差も
ごちゃまぜの元底辺中学校」に通い始め
た息子の日常を綴ったノンフィクション。人
種差別や経済格差、多様性の問題につ
いても描いている。



『クララとお日さま』
カズオ・イシグロ【著】/早川書房 (2021/3)

人工知能を搭載したロボットのクララは、
病弱の少女ジョージと出会い、やがて二
人は友情を育んでゆく。生きることの意
味を問う感動作。カズオ・イシグロのノー
ベル文学賞受賞後、第1作目となる作品。



『82年生まれ、キム・ジョン』
チョナムジュ【著】/斎藤 真理子【訳】
筑摩書房 (2019/8)

韓国のベストセラー小説。教育や仕事、
育児など女性が人生で出会う困難、差
別を描き、絶大な共感から社会現象を巻
き起こした作品。



『小説8050』
林 真理子【著】/新潮社 (2021/4)

息子が部屋から出なくなって7年。このま
までは、家族が崩壊する。「引きこもり
100万人時代」に生きるすべての日本
人に捧ぐ。絶望と再生の物語。



『夜が明ける』
西加奈子【著】/新潮社 (2021/10)

若者の貧困、虐待、過重労働がテーマの
小説。思春期から33歳になるまでの男同
士の友情と成長、そして変わりゆく日々を
生きる奇跡を描く、再生と救済の感動作。



『臨床の砦』
夏川 草介【著】/小学館 (2021/4)

命がけでコロナに立ち向かった小さな病
院の、知られざる記録。現代版『ベスト』
ともいえるドキュメント小説。著者は『神
様のカルテ』などの作品でも知られる小
説家であり、現役の医師でもある。



絲山 秋子

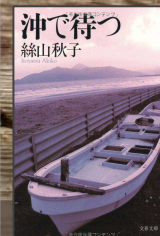
東京都出身、高崎市在住の小説家。
『沖で待つ』で第134回芥川賞、
『薄情』で第52回谷崎潤一郎賞な
どの文学賞を受賞している。



芥川賞作家の絲山秋子が、大好きな群馬を、
愛車で駆け回った+山道や水道も歩いた。
上毛新聞に連載された、群馬の歴史文化

『絲山秋子の街道を行く』
絲山秋子【著】/上毛新聞社
(2015/10)

ドライブが好きな著者が、
愛車で群馬の端から端ま
で駆け回り、上州の文化や
歴史、食や人を魅力的に
紹介した1冊。上毛新聞の
連載「街道を行く」をまと
めたもの。



『沖で待つ』
絲山秋子【著】/文藝春秋
(2009/2)

同期の太っちゃんが死ん
だ。約束を果たすため、私
は太っちゃんの部屋にし
のびこむ。仕事を通して結
ばれた男女の信頼と友情
を描く芥川賞受賞作「沖
で待つ」に、他2篇を併録。



『薄情』
絲山秋子【著】/河出書房
新社 (2018/7)

高崎市が舞台。他人への
深入りを避けて過ごして
きた主人公だったが…。
“地方”が持つ厳しさと、
その先に開かれる深い優
しさに寄り添う作品。谷
崎潤一郎賞受賞作。

✎ R3年度～R4年度に購入した書籍を中心にご紹介しています。